

〈コロナ〉も大変だが

地震・雷・火事・親父も

命の安全が最優先！

DangerNews & JYAN研

地震予知の大革命!

これまでの技術は××!

革新の地震観測

代表國廣秀光

役立たない観測技術

1 現在の観測法

地震計の揺れ観測網 GPS利用の地表位置観測網 海洋に海底観測網敷設

2 解析法（総て後データ）

地震計の揺れデータを利用 GPSで位置変動を観測 海底での地震観測

3 情報技術

地震計による地震警報を発表中＝直下型地震では揺れた後に警報が出る。
GPSでの位置変動観測は、地表面のみで深層が判らず、予知は叶わない。
海底に地震計観測網を敷設中だが、地震予知（プレスリップも）実績無し。

新しい、電磁観測技術

1 観測法 (<http://ara.jyan.biz/>)

電磁的な地震計データの観測網 電離層、水平方向、アースの電磁波観測網

2 解析法 (同上)

電磁(波)気データを集積 観測網データを自動計算 経験則と照合して補正

3 情報技術 (同上)

電磁気を地表で観測して、電磁観測計によるデータを予知・予見に活用する
上空は、電離層波を全国10ヶ所くらいで観測し、遠地の3原則解析に利用
水平は、主にFM電波を利用して電磁波の変化と異常方向の震源探知に利用
地下は、アース電磁波を観測網で観測、データを解析し3原則を自動計算

電磁気観測で、地震予知が**大革命** **「地震予見」**にまで発展したぞ！

1 何がどう変わるか？

約1週間前に、ほぼ正しい地震予知情報が出ているのが、当たり前となる。

2 特徴と利点

数日前には、次に起きる地震の回数や、いつ、どこ、大きさが発表される。
仕事や学校等で活用され、日常的な危険情報として生活に利用される。

3 将来の姿

地震や噴火等の予知・予見情報が出る事によって、命の安全が保たれる。
観測と解析技術や表示方法が改良され、世界的な観測手法として普及する。

新しい、観測技術では

1 観測法 (<http://ara.jyan.biz/>) 他

揺れ等のアナログ紙記録から一電磁的なデジタルデータの観測に変わった

2 解析法 (同上)

デジタルデータなので、機械的な自動計算ができ、経験則との照合も可能

3 情報技術 (同上)

予見は、気象衛星のひまわりのように画像で表現できるので、判りやすい！
上中下の3方向を観測するので、直下から海外まで殆どの異常を感知できる
予知理論やメカニズムは昨年発表の通り、地殻変動は電磁観測で捕捉できる。

研究25年<言って委員会>JYAN研 國廣秀光

- 現在、気象庁は凄いお金を使って気象の把握に努めているが、東北の津波高、熊本の前・本震、遅い特別警報で死亡者多し！
- 地象は殆ど解って無いのが現実。未だ、地震計に頼っている。
- 地震計は、地表の揺れは示してくれるが、実は、微震発生からの後情報である。これで地震の予知情報を出そうと、地震警報を発表中だが（直下型は間に合わず、30%は間違っている）海洋観測網も技術不足での拡大は、予算の無駄遣いとなろう。
- 地震や噴火等の地象観測は、殆どが電磁観測となるが、地震関係予算100億円中、30億円で正確な予知情報を配信できます。
- 電磁観測のノウハウは、悪用防止で未公開ですが、命の安全が第一、防災投資(=経済浮揚)より、救命できる予見が必要です。